

## 平成28年度ほっかいどうSNSユースミーティングの結果について

平成27年度にインターネットを活用したWEBアンケートを試行実施した結果、アンケートなどのように一方向ではなく、会議やSNS利用による意見交換など、双方向での議論の深化を求める意見も33.3%と多かったため、平成28年度は双方向での議論を深める方法により、意見交換の場を設けることとし、SNSツールを利用したWEB会議を開催した。

### 1 開催概要

#### (1) 会議名

平成28年度ほっかいどうSNSユースミーティング

#### (2) 開催日時

平成28年11月20日（日） 10:00～12:00

#### (3) 場所

北海道教育研究所（江別市）、他全道4ヶ所（江別市、函館市、旭川市、帯広市、釧路市）

#### (4) 参加者

- ・ 学生、生徒 3名（高校生2名、大学生1名）
- ・ 会社員 4名（不登校など困難を有する経験を持つ若者などを含む）
- ・ 団体職員 1名
- ・ 農林水産業 1名
- ・ 自営業 1名

#### (5) 実施方法

SNSツールのうち、次の理由からスカイプを選択し、メイン会場の他、道内4カ所をネット経由で画像と音声を同時接続し、テーマに沿った意見交換を行った。

## 2 スカイプの選択について

SNSにはフェイスブック、ツイッターやライン、スカイプなど多くのツールがあるが、掲示板のように書き込みにより意見交換を進めるタイプと、テレビ電話のように音声と画像を同時に配信して意見交換を進めるタイプに大別される。

書き込みによる意見交換は、平成25年度に内閣府がフェイスブックを活用し、試行実施している。

※ 内閣府によるフェイスブックの試行：「Facebook を活用した子ども・若者からの試行的意見聴取の結果概要」  
<http://www.youth-cao.go.jp/guidance/theme25fb.pdf>

この、内閣府が行ったフェイスブックを活用した試行では、次のようなメリット、デメリットが報告されている。

### 【内閣府によるフェイスブック試行のメリット、デメリット】

#### メリット

- 1 即時性、双方向性がある  
リアルタイムで他者の意見を見ることができ、他者の意見を見て自分の意見を固めることもできる
- 2 気軽に参加できる  
パブリックコメントは「堅苦しい」というイメージがあるが、フェイスブック上での議論であれば高校生でも気軽に参加することができる  
質問などのやり取りをしながら、意見内容をまとめずに気軽に発言できる
- 3 その他  
普段なら埋もれてしまうような意見もみることができる

#### デメリット

- 1 リアルタイムであるために、かえって意見を出しづらい  
リアルタイムで議論が進むため、一日参加できないと参加しづらい  
意見を言う前に議論が先に進む。
- 2 匿名性がない中で他の参加者の存在が気になる  
自分の意見が他の参加者からみてどうかが気になり、発言しにくい
- 3 少数派の意見が出にくくなる  
積極的に意見を言う人の意見がどうしても強くなり、少数派の意見が出にくい  
意見を誘導しようとする勢力の影響を受けかねない

内閣府が行ったフェイスブックを利用した方法によると、居住地や時間を問わず、自由度が非常に高いなかで参加でき、参加者数もほぼ制限なく設定できるなど、多数による意見交換には非常に適していると考えられる。

一方、スカイプやグーグルハンガアウトなどのビデオ通話型のSNSツールは、あまり多くを繋いでの同時通話は出来ないが、例えばスカイプでは最大10ヶ所、推奨5ヶ所での同時通話を可能としており、一堂に会しての会議と同様、リアルタイムでお互いの顔や雰囲気を感じながら意見交換が可能とのことであるため、今回は、その実用性も確認する意味から、スカイプやグーグルハンガアウトなどのビデオ通話機能を活用したWEB会議によることとし、現時点で汎用性が高い、スカイプを選択した。

### 3 会場・使用機器・通信環境について

#### (1) 会場

道庁ではセキュリティや回線確保のためスカイプやグーグルハンガアウトなどのビデオ通話を許可していないことから、北海道立教育研究所が行うスカイプのビデオ通話試験の一環としてWEB会議を行うこととした。

#### (2) 使用機器

主会場の機器は、ノートパソコンに200万画素のWEBカメラ、広範囲で集音出来るマイク、スピーカーを接続し、ノートパソコンの画面を100インチのモニターに出力した。

帯広会場以外の機器はパソコンを使用した。帯広会場のみタブレットを使用した。

今回使用したパソコン及びタブレットに内蔵又は外付けカメラの画角では、画面には2名から3名しか映らないことから、さらに多くの人数が参加する会議を開催する際には、より画角の広いカメラが必要と感じた。

#### (3) 通信環境について

スカイプのビデオ通話機能の同時接続回線数は最大5回線までが推奨されていることから、道内の5ヶ所で接続し、セキュリティを確保するため「Skype for Business」を使用した。

アカウントは参加者個人のものではなく、北海道立教育研究所が用意したものをを使用した。

冒頭、映像や音声が届かないといった不具合もあったが、設定を見直すなどして最終的に5ヶ所全てが接続され全員が参加した。

北海道立教育研究所は光ケーブルに専用回線で、他の4ヶ所も光回線で接続した。

#### 4 試行結果の考察

今回の試行は、すべての会場で光回線を使用したこともあり、映像については、途中映像が途絶える、暗転する等の場面が多少生じたが、音声については、途切れることなく常時接続されており、大きなストレスなく会議を継続することができた。

このことから、十分実用に耐えうることを確認した。

##### (1) スカイプを用いることのメリット

- すべての会場を映像と音声で同時接続ができ、リアルタイムで意見交換ができる。
- 双方向での議論の深化を図ることができる。
- 自宅や地域の会館などリラックスできる環境の中、参加できる。
- 各会場においても複数人での参加が可能であるため、各会場でも議論が可能である。
- ネット環境さえあれば、どこにいても参加できる。

##### (2) スカイプを用いることのデメリット

- 現時点でSNSツールの性能から、5会場程度の接続が限界である。
- 画面が小さいことから、他者の表情等がわかりづらい。また、板書などが見えづらい。
- 今回用いたカメラ性能では、画角が狭いため、発言者が変わるたびカメラを動かす必要があった。
- 通常の会議より視覚情報などが少ないため、進行役（ファシリテーター）の役割がより重要である。

#### 5 意見交換の概要（テーマと主な発言要旨など）

##### (1) テーマ1「道庁に若者の意見を集約するにはどうしたらよいか」

今回のSNS利用をはじめ、会議やアンケートなど意見等を伝える（聴く）にはいろいろな手法や手段がある中で、自分の考えを行政に伝えるにはどのような手法、手段が望ましいのかについて、意見交換した。

##### 〈主な発言〉

- 若者の活動やコミュニティと繋がれば意見集約のパイプができるのでは
- 日頃からSNS・ネットや気軽な形でできれば
- 多様な世代で話してみたい
- 若者に興味を持ってもらう工夫が大事
- 合宿や顔を通じた会議、そう言った場での話し合い、顔の見えるイベント
- 政治が身近になるよう、若者イベントに政治家が来てみては
- 繋がった人とどう関わるかが大事
- 北の高校生会議など若者や学生の自主的な取組の広がりに期待

(2) テーマ2「北海道の未来について」

未来のよりよい北海道をつくるために行政に望むことや、自分自身ができること、すべきことなどについて、①経済・産業、②くらし、③地域などの区分ごとに、意見交換した。

〈主な発言〉

- 子どもの貧困問題が気になる。学習支援や子ども食堂が不足
- フリースクールなども学費がかかる
- 地元に戻ることができる環境づくりや情報発信が求められている
- 地域の魅力を作る一員と思える場づくり、コミュニティ作りが必要
- 「バスの運営を自ら地域で運営する」活動の実践。自分たちが動き、大人や社会、公的機関の人たちを動かし、関わることが大事
- 大人と子どもを繋ぐ場やコミュニティが必要
- ある調査では、「この地域に希望が持てない」とのアンケート結果に多数の意見があった。地元に戻ることができる環境づくりや情報発信が求められている
- 地域の魅力を作る一員と思える場づくり、コミュニティ作りが必要

(3) 参加者からの感想

- こんなに意見交換ができるとは思わなかった
- こうした共有の場がもっとあればいいと思った
- Skypeだと思った時にすぐ発言できない
- 板書やホワイトボードの議事録がみんなで共有できればよかった
- 公的機関、役所の方々がもっと地域の活動や現場を知るべき
- 人と人のつながりや出逢いを大事にし、どう関わるかが大切だと感じた

## 6 資料

### 平成28年度ほっかいどうSNSユースミーティング実施要領

- 1 目的及び内容  
若者の社会参画を促すための取り組みとして、若者意見を道政に反映させるための仕組みづくりに向けた方法の検討等を行うため、SNS（スカイプ）を用いて若者同士による意見交換を試行するもの。
- 2 会議の名称  
平成28年度ほっかいどうSNSユースミーティング
- 3 実施日程  
平成28年11月20日（日） 10:00～12:00（2時間）
- 4 会場  
札幌（メイン）、函館市内、旭川市内、帯広市内、釧路市内の5会場
- 5 参加者  
道内に在住するおおむね29歳までの者のうち、平成27年度に試行したアンケートにおいて分類した職業欄に基づいて、10名程度を事務局が指定する。
- 6 会議方法  
SNS（スカイプ）により各会場を接続し、テレビ会議を行う。
- 7 議題
  - (1) 若者の意見や希望を北海道に届けるには  
今回のSNS利用をはじめ、会議やアンケートなど意見等を伝える（聴く）にはいろいろな手法や手段がある中で、自分の考えを行政に伝えるにはどのような手法、手段が望ましいのかについて、意見交換する。
  - (2) 北海道の未来のために  
未来のよりよい北海道をつくるために行政に望むことや、自分自身ができること、すべきことなどについて、①経済・産業、②くらし、③地域などの区分ごとに、意見交換する。
- 8 会議の公開  
メイン会場のみ公開とする。
- 9 交通費等  
参加に係る交通費は実施後精算する。  
なお、謝金等については支給しない。